

まちづくりの様子を しっかり見学しました

～市民見学会～

5月24日(土)・27日(火)・28日(水)の3日間、
『市民見学会』が行われました。

この市民見学会は、市民のみなさんにもっとまちづくりの様子を知ってもらい、市政への理解を深めてもらおうと、市が毎年、春と秋に開いているもので、今回の春の見学会には市民60人が参加しました。

見学施設は、特別養護老人ホーム『緑風園』、クリンクルセンター、しんた21などの既存施設のほか、新火葬場の建設現場も見学。クリンクルセンターの空き缶分別作業の見学では、「においの中で大変な作業ね」「もっとしっかり分別しましょう」といった声が参加者から聞かれ、改めてごみ分別の大切さを確かめていました。



空き缶の分別作業を見学する参加者(クリンクルセンター)
汚泥の沈殿池を見学する参加者(若山浄化センター)

証言や資料をもとに幸恵の生涯を熱演

～劇団・えるむ『銀のしずくの降る夜』～

6月11日(水)、市民会館で劇団『えるむ』による『銀のしずくの降る夜』(文化・スポーツ振興財団主催)が上演され、アイヌ文化の伝承に偉業を残した知里幸恵の生涯を熱演した団員に、約450人の観客からたくさんの拍手が送られていました。

この劇は、『アイヌ神謡集』を著し、19歳という若さでなくなった知里幸恵(登別出身)の生誕100年を記念し、その生涯を舞台化したもの。残された資料や当時の証言をもとに、幼少のころから、アイヌ語学者・金田一京助博士との出会い、病苦と闘いながらアイヌ神謡集を書き残して亡くなるまでの幸恵の生涯を、鮮やかに描き出しています。

幸恵生誕の地の登別市では、生誕100年を記念して、『知里幸恵生誕100年記念フォーラム』(9月13日(土)～15日(月))や『第16回アイヌ民族文化祭』(11月8日(土))などが催されます。



鉱山町の自然を再発見

～野鳥の楽しみ方・鉱山町フラワーソン2003～

5月24日(土)に『野鳥の楽しみ方』、25日(日)に『鉱山町フラワーソン2003』がふおれすと鉱山で開催され、参加者は自然とのふれあいを楽しみながら、自然の大切さについて理解を深めました。

『野鳥の楽しみ方』は、ふおれすと鉱山の市民支援組織『モモンガくらぶ』の主催。講師から野鳥の生態の説明を受けた参加者14人は、双眼鏡と図鑑を片手に林道を歩き、春の野鳥を探しました。『キビタキ』『シノリガモ』『オオルリ』など野鳥のさえずりや姿を見つけた参加者は歓声を上げていました。

『鉱山町フラワーソン2003』は、自然とふれあいながら野の花の分布を調べようと、ふおれすと鉱山が主催しました。参加者21人がふおれすと鉱山周辺の林道を歩き、『ノビネチドリ』『シラネアオイ』などの花を見つけると、図鑑を開いて確かめたり、地図に場所や花の名前を書いていた。



野鳥の楽しみ方

鉱山町フラワーソン
2003

